



国土交通省道路局長 殿

牟第 644号
平成19年4月20日

徳島県海部郡牟岐町長

池内正勝



中期的な計画の作成に当たっての意見(提出)

平成19年4月2日付け国道企第114号について下記のとおり意見を提出します。

記

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

牟岐町は、全国の過疎町村と同様に過疎化が進む中で高齢化(高齢化率は、平成19年3月31日現在36.94%・厚生労働省ワークシートによると平成26年度で約41%)が急激に進行しています。

以上のことから、高齢者による交通事故及び車椅子による通行者が増加している現状がある中で、高齢者、障害者にやさしいバリアフリー化が必要であります。

快適な生活環境の構築のために段差の解消、歩道の整備、医療・保健福祉施設への安全なアクセスなどの整備が望まれます。

また、一方近い将来に起こると言われています東南海地震の対応も急がれる事であり、牟岐町の密集住宅地の防災対策も重要であるが、住宅密集地すべてが津波浸水予測地域として指定されていることから、災害に強い生命の道として、津波からの避難道路、被災地への緊急輸送道路としての役割を果たすことのできる道路整備も急がれますし、隣接町との複線の道路確保が必要であります。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

海部郡の今後の道路計画を立てるにあたっては、各町それぞれの意見、考えで無く、将来的には3町が合併することも考え合わせ郡内の意見を一本化したつながりのある総合的な考えのもと計画を立てることが重要であると考えます。

そのことが将来的に、特に複線の道路確保における計画では、効率的な結果を得られると考えます。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

道の駅の役割と同様な、沿道施設としての隣接する地域施設の一体的な利用価値の創造が考えられます。

また、近年において国道55号線が四国88ヶ所の歩き遍路道としての利用が増加していることから、道路空間(景勝地の駐車スペース等)、沿道施設(遍路道休憩所等)との有効活用と一体的な管理体制の構築が考えられます。

以上